WWW WORLD WATCH

CONTENTS／1

011 編集長独白
013 表紙の時計／パテック フィリップ ノーチラス〝Ref.5980／1R〟
015 Editor's Choice!
シャネル J12 ファーズ ドゥ リュヌ／ブシュロン エピュール クラシック／ラルフ ローレン 867 ダイヤモンド ウォッチ／ブランパン L-エボリューション R フライバック クロノグラフ ラージデイト／ペキニエ ロワイヤル グラン スポール トア・フォンクション

020 世界は時計で回っている。
022 **A.ランゲ&ゾーネ** 〝グランド・コンプリケーション〟
024 **ヴァシュロン・コンスタンタン** 〝トレド1951〟／〝パトリモニー・トラディショナル・14デイズ・トゥールビヨン プラチナ・コンセプト〟
026 **オフィチーネ パネライ** 〝ルミノール マリーナ エイトデイズ 44㎜〟
028 **モンブラン** 〝コレクション ヴィルレ 1858 タイムライター1 メタモルフォシス〟
030 **ウブロ** 〝MP-05 ラ・フェラーリ〟
033 **ウルベルク** 〝EMC〟
034 **デヴォン** 〝トレッド1&トレッド2〟
037 **マニュファクチュールとして確立する**
ブルガリの時計製造
2000年以降、垂直統合で時計の自社一貫製造を目ざすブルガリ。体制も整い、自社ムーブメント、BVL191の製造も進んでいる。初めて公開されたラ・ショー・ド・フォンのムーブメント部品製造工房をはじめ、ブルガリの時計を支える各工房を取材した。
048 **ボヴェ** 〝現代の古典美の表現で独自性を築く〟
057 **カルティエ ハイジュエリー ピース**
手仕事が生み出す華麗なアート
カルティエが創業以来、築き上げてきたハイジュエリーの世界。今年、発表された〝コレクション オディセ ドゥ カルティエ〟を紹介するとともに、ユニークピースを手がけるパリのハイジュエリー工房を取材。

WWW WORLD WATCH

CONTENTS／2

064 グランパレ国立美術館協会主催『カルティエ、スタイルと歴史』展

066 オーデマ ピゲ 〝複雑時計技術を財産として発展を目指す〟

073 テルイ&サクラダ 雫石〝RS-1〟

新境地に挑んで

雫石高級時計工房が手がける新しいコレクションが発売となった。初めて3次元彫金に挑戦した彫金師の照井明さん、薄型ムーブメントを組み上げる桜田守さん、おふたりにこの取り組みについて伺った。

078 タグ・ホイヤー 〝明快な戦略と投資が未来を拓く〟

086 ラドー 〝セラミックスの先駆者が生み出す外装の未来〟

094 エッセー／[最終回]ウオッチの現代史は革新の連続 ●文／時の研究家 織田 一朗

095 ウオッチムーブメント ハンドブック[最終回] ●文／中村清尚

100 時計ジャーナリスト 瀧澤 広の〝マイ・チョイス〟第12回

102 ビッグ〝ムーンフェイズ〟

106 続・商館時計蒐集綺談[最終回] ●文／大川 展功

114 腕時計新着情報

116 ジュネーブ・グランプリ2013

117 オフィチーネ パネライ 名古屋ブティック

118 ヴァシュロン・コンスタンタン アワークラブ

119 『パテック フィリップ展〜歴史の中のタイムピース〜』

120 高級時計財団主催『時を知る 時計の歴史／日時計誕生から最新の複雑機構への歩み』

124 インフォメーション

128 メーカー&ショップリスト

次号予告

マニュファクチュールとして確立する

ブルガリの時計製造

2000年以来、
垂直統合を推進してきたブルガリは
今年、自社開発・製造ムーブメント、
BVL191を発表し、
マニュファクチュールとしての成長を示した。
初めて公開された
ラ・ショー・ド・フォンにある
ムーブメント部品製造工場をはじめ、
ヌシャテル地方を中心に
各地に分散するブルガリの時計製造の要所を取材した。

取材・文／松阿彌靖（P40〜47）、香山知子（本誌編集部／P38）
写真／佐田美津也（P40〜47）、熊谷義久（WPP／P39）

カルティエ ハイジュエリー ピース

手仕事が生み出す華麗なアート

傷のない無色透明なダイヤモンド、
深い色味のルビーやエメラルド、
これらの貴石の輝きを最大限に引き出すカッティング、
その魅力をさらに高めるクリエイション、
そして創造を忠実に具現化する職人たちの手仕事。
これらがひとつになって生まれるハイジュエリーの世界を
パリにあるカルティエのアトリエで取材した。

取材・文／香山知子（本誌編集部） 写真／山下郁夫、カルティエ（P59）

オーデマ ピゲ

複雑時計技術を財産として発展を目指す

オーデマ ピゲは今年のSIHH直前にフランソワーアンリ・ベナミアスさんが新CEOに就任し、新しい方向性が期待されるが、その第一歩は来年の新作で表現されることだろう。ここでは改めて複雑時計開発の歩みを振り返るとともに、現在の状況をみてみたい。

今年1月に最高経営責任者に就任したベナミアスさんは1964年にパリに生まれ、プロゴルファーからラグジュアリー・ビジネスに転じたという異色の経歴をもつ。ジョルジオ・アルマーニやジャンフランコ・フェレをはじめとするファッション・ブランドを経て94年にオーデマ ピゲ・フランスに入り、その後、シンガポールに赴任し、99年には北米の代表取締役およびCEOに就任した。北米での在職中はニューヨークやマイアミにブティックをオープンするなど、アメリカでのオーデマ ピゲの存在を高めることに力を尽くしたという。

彼は書面でのインタビューに答え、来年の展望を次のように語った。

「2013年はオーデマピゲの複雑時計にみられる職人の技のアピールに力を入れ、また新しい広告キャンペーンによって女性モデルにも注力しましたが、14年も同様です。特に女性市場開拓は重要で、現在、販売数量の25%が女性モデルですが、これを35%にまで上げる予定です。また製造の増加に伴ってジュネーブにケースとブレスレットの新工場を建設し、時計製造のすべてに関わる作業を自社で行う体制を強化します。販売面では香港、中国、イタリア、ギリシャ、フランス、アメリカに新しいブティックをオープンする予定です」

このように世界的な市場拡大と、それに伴う製造体制の強化が予想されるが、製造面ではすでに2009年、創業の地ル・ブラッシュに新社屋「マニュファクチュール・デ・フォルジュ」をオープンした。新工場はそれまで社屋のなかで分散していた作業を1カ所に集結し、作業の流れを合理化することを目的とし、サブアッセンブリーなどの自動化も進んでいる。新工房設立で製造は約30%増したといわれる。

自社ムーブメントも手巻きキャリバー3090と自動巻きキャリバー3120をベースに10種類が誕生している。

スイスの環境基準“ミネルジー・エコ”に準じた「マニュファクチュール・デ・フォルジュ」。

ル・ブラッシュのメインストリートに面した社屋は1875年の創業から2002年まで7回の増改築を重ねている。

オーデマ ピゲでは全世界で1200人、スイス国内で約800人が働くが、マニュファクチュール・デ・フォルジュには約350人が勤務する。ムーブメント製造、完成品組み立てのほか、ロイヤル オークのタペストリー文字盤の製造も1年半前から工房内で行われ、12台のギョウシェマシンが導入されている。